

## 目指すべき国家像（国民生活と社会の姿）

- ◆ 国民一人ひとりが誇りをもって主体的、自立的に個性や能力を発揮し、社会的役割を果たしながら、十分な経済的、時間的豊かさを享受することで、ウェルビーイングがかなえられ、**将来世代が希望を持てる国民生活**を実現
- ◆ **公正・公平**、安全・安心で、各々の多様性が尊重される包摂的で**持続可能な社会**を構築

### 経済財政運営の目指すべき姿

- ◆ 官民連携により**成長と分配の好循環**を継続させ、**分厚い中間層**を形成
- ◆ 同時に**財政の健全性**を維持

### 経済財政運営に対する経団連の考え方

- ◆ 官民連携による**「投資牽引型経済」**の実現
- ◆ 財政の持続可能性、**市場の信認維持**に十分留意
- ◆ 重要な財政健全化目標は、**債務残高対GDP比の安定的・継続的な引き下げ**
- ◆ 複眼的な視点も重要。**3年程度の複数年度**の平均値が均衡することを念頭に**PBを毎年確認**
- ◆ **利払費の推移**にも注視
- ◆ **「歳出の目安」**を見直し、ワイスパンディングを大前提としつつ、中長期計画に基づいて**複数年度の予算**を定める
- ◆ 補正ではなく、**当初予算で措置**
- ◆ **独立財政機関の設置**を検討

### 現状と課題

- 急激な少子高齢化・人口減少
- 現役世代の社会保険料負担の増大
- 経済成長の実現（名目3%程度、実質1%超）がなければ、財政、社会保障制度の持続可能性に懸念
- 「投資牽引型経済」の実現が不可欠

### 全世代型社会保障の目指すべき姿

- ◆ 人口減少下であっても、全世代が安心し、**能力に応じて共に支えあう**、公正・公平で持続可能な**中福祉・中負担程度**の社会保障制度
- ◆ **分厚い中間層**を形成し、多くの人々の結婚や子供を持つことの希望を叶え、少子化に歯止め

### 税・財政・社会保障一体改革の全体像



- ◆ 「社会保障国民会議」では、広く国民を議論に巻き込んでいく必要
- ◆ 企業はマインドセットを転換し、「投資牽引型経済」を実現することを通じて、「成長と分配の好循環」を加速・拡大させるべく、取り組んでいく

### 社会保障国民会議に対する経団連の考え方

- ◆ **2040年以降も持続可能**で、強い経済を支える社会基盤としての税・社会保障の全体像を議論
- ◆ 「社会保障の将来見通し」（2018年5月）**改訂版の速やかな公表**
- ◆ 給付付き税額控除は、**2年を待たずに導入し、段階的に精緻化**を図ることも有力な選択肢
- ◆ まず、**勤労世代の中・低所得者の負担軽減**。その後、マイナンバーを徹底活用し精緻化
- ◆ 消費税減税は、**代替財源の明確化**が大前提。実務上の諸課題にも配慮
- ◆ 「効率的な医療・介護提供体制」、「医療・介護DX」、「攻めの予防医療と健康経営」等も、**早期に検討**